

# 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

## 1. 基本情報

### ○都道府県名及び市町村名

群馬県

### ○学校名

高崎市立京ヶ島小学校

### ○学校のURL

[http://swa.city.takasaki.gunma.jp/kyougashima\\_sho/](http://swa.city.takasaki.gunma.jp/kyougashima_sho/)

## 2. 学校紹介

### ○学級数

【通常の学級】 15学級(内訳：1年生3学級、2年生3学級、3年生3学級、  
4年生2学級、5年生2学級、6年生2学級)

【特別支援学級】 1学級 【合計】 16学級

### ○児童生徒数

【全児童数】 439人 (平成23年4月7日現在)

### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

#### 【学校教育目標】

「自ら学び、すぐれた知性と豊かな心を持ち、たくましく生きる心身ともに健康な児童を育成する」

- ・心豊かな子
- ・自ら学ぶ子
- ・健康でたくましい子

#### 【研究主題】

互いのよさを認め合い、学び合う児童の育成  
～ 他者とのかかわり合いに着目した実践を通して～

## ○人権教育にかかる取組の全体概要

学校教育目標を踏まえ、研究主題「互いのよさを認め合い、学び合う児童の育成 ～他者とのかかわり合いに着目した実践を通して～」に迫るために、次の3つの部会を位置付け、全校体制による組織的・計画的な研究に取り組んだ。

### ◆各部会の取組

#### 【人間関係づくり部会】

- ・ 道徳の授業改善
- ・ 話し合い活動の充実
- ・ 構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルを通しての人間関係づくり

#### 【授業づくり部会】

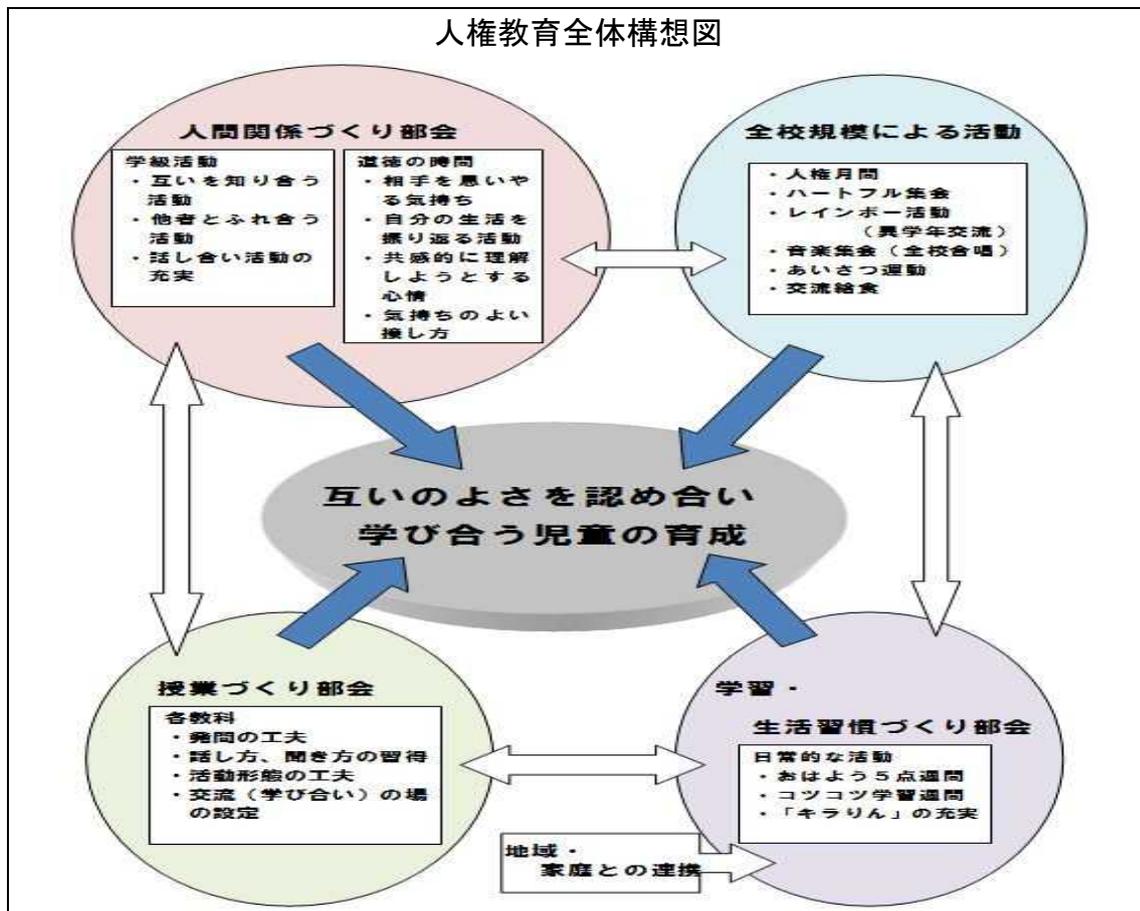
- ・ 学び合いを取り入れた授業づくり

#### 【学習・生活習慣づくり部会】

- ・ 「おはよう5点」の年間実施と改善・充実
- ・ 「コツコツ学習」の見直し
- ・ 「キラりん」（生活目標の点検）の充実

### ◆全校規模による実践

- ・ 人権月間 ・ ハートフル集会 ・ レインボー活動（異学年交流）
- ・ 音楽集会（全校合唱） ・ あいさつ運動 ・ 交流給食



### 3. 特色ある実践事例の内容

#### ◆ 人間関係づくり部会の取組

##### 【取組のねらい】

道徳や学級活動の授業において、計画的に、話し合い活動等の「他者とのかかわり合い」の場面を取り入れることを通して、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を構築する。

##### 【取組の内容】

##### (1) 道徳の授業改善

- ・道徳において、「思いやり」「生命尊重」などの人権にかかわる内容項目に重点を置き、自分や他の人を大切にする道徳的実践力の育成を図った。
- ・視覚的資料の活用や動作化、資料提示の仕方の工夫や自作資料の活用を行い、豊かな人権感覚の育成を図った。

〈授業実践〉1年道徳「はしのうえのおおかみ」(2-(2)思いやり・親切)

##### ○ねらい

うさぎに親切にすると気持ちがいいと気付いたおおかみの行動から、相手に親切にすると自分も気持ちがいいことに気付く。

##### ○児童の変容

ペープサートや場面絵などの視覚的な資料の提示や役割演技の動作化を取り入れたことで、児童の興味・関心を高めることができた。役割演技での言葉のやり取りや自分とのかかわりで振り返る活動を行うことにより、相手に対する思いやりの心情や相手に親切にすると自分も気持ちがいいことを感じ取ることが可能となり、ねらいに迫ることができた。また、日常生活においても、友達の意見を聞くようにしたり、困っている友達に対して優しく声をかけて接したりする児童が多く見られるようになった。



##### (2) 話し合い活動(学級活動)の充実

話し合い活動の充実を図るため、司会、進行のマニュアルを作り、誰もが話し合い活動の司会や記録の役割を体験できるようにした。

低学年では教師のリードの下で話し合いをし、中学年ではマニュアルを活用して輪番制で司会を行い、全員に司会や板書などを体験できるようにした。高学年ではできるだけマニュアルを使用せず、臨機応変に話し合いが進められるよう、発達の段階に応じた指導を行った。共通して話し合うものを二つ取り上げ、6年間を通して計画的に話し合い活動を行うようにした。



〈授業実践〉 6年学級活動「卒業に向けて」～感謝の気持ちを伝えよう～

○ねらい

話し合い活動を通して、互いの意見を交流し合いながら、卒業に向けてお世話になった人たちに感謝の気持ちを伝えられる活動を考え、話し合う。

○児童の変容

何について話し合っているのかを明確にした議長団の進行や、発言者が次の人を指名する方法が、多くの児童の意見を発表させるのに有効であった。児童は活動のめあてを意識して話し合いを進めていた。事前の活動から話し合いへという学級活動の流れに沿って自分たちで進めることができるようになってきた。

## ◆ 授業づくり部会の取組

### 【取組のねらい】

「話し方・聞き方」の基本を身に付けさせ、各教科、各学年の特性を踏まえた「学び合い」の場を意図的、計画的に取り入れることを通して、互いのよさを認め合い、学び合える児童を育成する。

### 【取組の内容】

#### (1) 学び合いを取り入れた授業づくり

教科の特性を踏まえた言語活動の充実やコミュニケーション能力を高め、上手に伝え合い、かかわり合い、学び合うことができるよう、授業の工夫、改善を行った。また、『「学び合い」のプロセス5段階』を作成し、教員間で共通理解を図るとともに、話形マニュアルを作成し、それを基に「話し方・聞き方」の基本を身に付けさせ、学び合いの充実を図った。各教室には拡大したものを掲示した。

〈授業実践〉 3年社会科「はたらく人とわたしたちの暮らし」(店ではたらく人)

○ねらい

スーパー以外の販売店の工夫について、調べたことをもち寄り、グループでその店のよさを話し合ってみて、全体で共有することを通して、多様な販売店のよさを理解することができる。

○児童の変容

話し合いの中で付箋紙を用いて自分の考えを発表し、友達の意見を聞き合う活動を取り入れたことは、スーパー以外の販売店の工夫をたくさん見付けるといふ社会科のねらいだけでなく、互いの考えのよさを知るといふ人権教育の面からも、学び合いの充実や意見交流の深まりが見られた。

中学年

【聞く時】

- ★それが、何を、何をして、どう思ったのかな。
- ★友だちの意見は何かな。
- ★大事なところは何か。
- ★自分の意見と同じところ、ちがうところは何か。

【話す時】

- ★はい、みんなに聞かせるように。
- ★くん(さん)と同じです。
- ★くん(さん)に、(さんせい・はんだい)です。
- ★理由は○だからです。
- ★理由が○しました。

□話をしているほうを向いて聞く。

□自分の意見とくらべながら聞く。

(□メモをとりながら聞く)

□おわりまではっきりと話す。

□友だちの意見を入れて話す。

□自分の意見を最初に入れて話す。

□理由を入れて話す。

□主語とじゅつ語をはっきりさせて話す。

□友だちの意見の同じところ、ちがうところをはっきりさせて話す。

## 「学び合い」のプロセス5段階

第Ⅰ段階 「考える」	① 自分なりの考え を持つとする	・ 既存知識の活用。情報の収集。経験の適用。
第Ⅱ段階 「伝え合う」	② 自分の考えを伝える ③ 友だちの考えを 聞く	・ 自分の考えを整理。伝え方の工夫。 「私は～と考えました」 ・ 友だちの考えやその意図の理解。 「〇〇さんは△△という考えなんだな」
第Ⅲ段階 「気付く」	④ 自他の考えの共 通点・相違点に気 付く	・ 自他の考えの比較、相手の考えの良さに気づく。 「〇〇さんの考えはこんなところがいいな」 「〇〇さんの考えと私の考えでは△△の点で違っている」
第Ⅳ段階 「検討する」	⑤ 自他の考えを検 討し共有化する	・ グループによる問題解決 「みんなの考えをまとめると〇〇になるよ」 「私の考えに〇〇さんの考えを加えると△△になるからもっとよいと思う」
第Ⅴ段階 「まとめる」	⑥ 自分の考えをま とめる	・ 既習事項をまとめ、説明する 「きょうわかったことは、〇〇です」

### ◆ 学習・生活習慣づくり部会の取組

#### 【取組のねらい】

家庭との連携を通して、基本的な生活習慣や望ましい学習習慣を身に付けさせるとともに、目標に向かって努力する姿を認めることを通して、自尊感情や自己有用感、自己肯定感を培う。

#### 【取組の内容】

#### (1) 『おはよう5点』の年間実施と改善・充実 (基本的な生活習慣の定着)

『おはよう5点』とは、睡眠、朝食、歯磨き、トイレ、あいさつの5項目について振り返り、めあてを達成できたら1点とし、1週間を25点満点で自分の生活習慣を見直そうとするものである。平成19年度から開始したが、平成21年度からは1週間の点数を集計するとともに、保護者からの一言、自分の感想(4年生以上)、「けんこうバランスグラフ」を作成した。また、毎月実施した結果はファイルに綴じることとし、夏休みと冬休みには、主体的に取り組めるよう、5項目に対する目標を各自が家族と相談したり自分自身で設定したりするようにした。毎月1回継続して行ったことにより、定期的

**(6月)おはよう5点**  
けんこうバランスグラフ

項目	朝寝	歯磨き	トイレ	あいさつ	朝ごはん
目標	○	○	○	○	○
実況					
達成率					
感想					
保護者からの一言					
先生からの一言					

自分の「おはよう5点」ができたね。がんばろうと努力したことは何ですか？

けんこうバランスグラフ

担任の先生

に生活リズムを見直すことができた。また、家庭との連携を図ることで、家族ぐるみで生活習慣を整えようとする意識が高まり、睡眠不足の児童や朝食抜きで登校する児童が減少した。

## (2) 「キラりん」の充実（目標に向かって努力する姿の評価）

自己評価を通して、自己実現に向かって努力していかうとする気持ちを育てるために、6つの重点目標の中から月ごとに1つを決め、それに対する個人目標を立て、それを毎日「生活・音読カード」に評価した。がんばった児童に対しては、全校の前で呼名したり、名前を掲示したりして、認め合う場を設けた。低学年は、保護者と一緒に個人目標を決めるため、保護者の理解が進み、学校と家庭が連携して基本的な生活習慣の育成に取り組む上で効果があった。

これらの取組により、自ら個人目標を立て、意欲的に生活できる児童が増えた。



## ◆ 全校規模による実践

### 【取組のねらい】

多くの人とかかわり合える場を設定することを通して、一人一人の人権感覚やコミュニケーション能力を高める。

### 【取組の内容】

(主な取組の内容例)

#### ○全校合唱：合唱組曲「とべないホタル」

羽が縮れてとべないホタルをみんなで応援するホタルたち。そして、友達を助けるために自分の身を犠牲にすることを選んだ勇気のあるホタルの行動。一人だと思っていたけれど自分のことをみんなが考えてくれていることに気付いたとべないホタル。この作品から伝わってくる児童へのメッセージを全校合唱を通して感じ取らせること、また、全校児童が心をつなげて合唱に取り組むことで、協力することの大切さや友達への思いやりを感じさせることをねらいとして取り組んだ。みんなで一つのものを創り上げることは大変であるが、協力することの大切さが分かり、やり終えた後の達成感を味わうことができた。



#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

##### (1) 人間関係づくり部会の取組について

- 道徳において「思いやり」や「生命尊重」などを重点項目として扱い、役割演技等を取り入れることにより、児童は登場人物の心情を深く考えることが可能となり、豊かな心情の育成に結び付けることができた。
- 学級活動において話し合い活動に重点を置いたことにより、自分の意見と比較して発言できる児童が増えるとともに、他者の意見を尊重する姿勢が見られるようになってきた。

##### (2) 授業づくり部会の取組について

- 「話し方・聞き方」マニュアルを作成したことにより、授業中自信をもって発表する児童が増えるとともに、相手の方を見て聞いたり、自分の考えと比べながら聞いたりすることができるようになり、傍観者的な児童の減少が見られるようになった。
- 「5段階の学び合いのプロセス」の効果的な活用により、自他の考えの共通点や相違点に気付いたり、自他の考えをしっかりと共有したりすることができるようになり、互いに相手を尊重し合うことができる児童の育成に結び付けることができた。

##### (3) 学習・生活習慣づくり部会の取組について

- 家庭との連携を密にした「おはよう5点」の実施や「コツコツ学習」の改善・充実、「キラりん」の充実を通して、児童一人一人の自尊感情や自己有用感、自己肯定感を培うことができた。

##### (4) 全校規模による実践

- 全校合唱や異学年交流活動等を通して、互いに協力し合いながら活動に取り組むことや互いに支え合うことのすばらしさを実感させることができた。

## 5. 実践事例についての評価

### (1) 人権感覚チェックアンケート結果から

人権感覚チェック（アンケート）を平成22・23年度の7月に実施した。平成23年度の結果では、「休み時間、友達となかよく楽しく過ごすことができた」と答えた児童が8割以上、また、「友達のまちがいや失敗を笑ったり、責めたりしませんでした」と答えた児童も低・中学年では約8割、高学年でも約7割となっており、平成22年度よりいずれも高くなっている。

これらのことから、児童の人間関係が良好になってきていると考えられる。また、保護者、教職員の児童に対する言葉かけも、児童の努力やよさを積極的に認めるような内容が増えてきている。

### (2) 「人間関係づくり」を通しての児童の変容

○低学年の目標「ともだちにやさしくできる子」に対して

- ・学級での「仕事」を意識してがんばる児童が増えた。結果として、間接的に「ひとにやさしく」する活動となり、「ありがとう」の言葉が増えた。

○中学年の目標「たすけあってはげましあえる子」に対して

- ・グループ活動の中で、優しい言葉掛けをする姿が見られるようになった。また、「ありがとう」「だいじょうぶ」の言葉が多く聞かれるようになった。

○高学年の目標「相手の立場に立って考え行動する子」に対して

- ・学校のリーダーとしての自覚をもつ児童が増え、下級生の面倒をみたり、委員会の仕事を率先して行ったりするなど、同級生だけでなくいろいろな相手の立場に立って考え行動する児童が増えてきた。

### (3) 「授業づくり」を通しての児童の変容

○低学年の目標「自分の考えをもち、しっかり話を聞ける子」に対して

- ・話す人の方を見ながら真剣に聞こうとする児童が多くなり、授業に主体的にかかわれる児童が増えた。
- ・指名時の「はい」や話の終わりの「です」の言葉についてはどの児童も自然に使えるようになってきた。また、「○○さんと同じです」など意思表示ができるようになった。

○中学年の目標「自分の考えと友達の考えを比べながら聞いて、ちがいやよさに気づける子」に対して

- ・「話し方」や「聞き方」の指導を繰り返したことによって、「返事をきちんとする」、「起立して発言する」、「相手の意見を良く聞く」などを意識して学習できるようになり、授業態度にメリハリが見られるようになった。

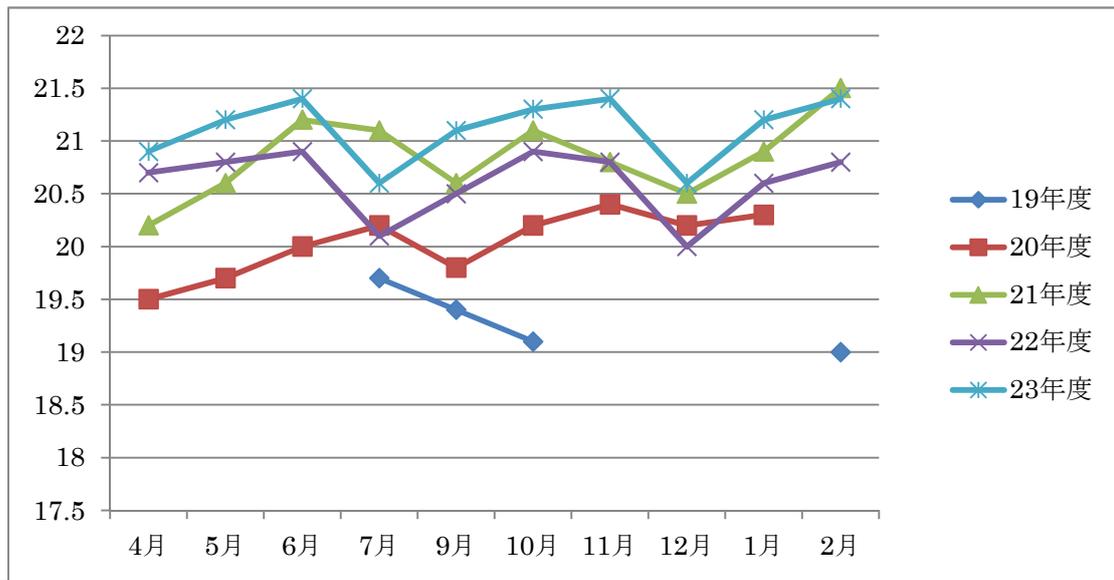
○高学年の目標「友達の考えを取り入れながら、自分の考えを発表できる子」に対して

- ・ほとんどの児童が話形マニュアルにしたがって発表できるようになっている。授業以外の場面でも、話形マニュアルに添った話し方ができる児童が増え、高学年としての意識高揚にもつながった。

### (4) 「学習・生活習慣づくり」を通しての児童の変容

- ・個人差はあるものの、全体として時間通りに学習が始められ、きまりを守ろうと努力する姿が見られることから、落ち着いて生活できている様子が伺える。

目指す児童像「学習の準備ができる子」、「きまりを守る子」におおむね近付いていると考えられる。「おはよう5点」の5年間の合計点の変化は次のとおりである。



## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

高崎市立京ヶ島小学校

学校をあげて人間関係づくり、授業づくり、学習・生活習慣づくり、全校規模での取組といったことがらを柱に据えて取り組んだ事例である。協同的・体験的・参加的活動を積極的かつ体系的に取り上げ、そのような学習活動が成果を上げ定着するように『学び合い』のプロセス5段階」を大切にしながらふだんの授業も行っている。これは、「第三次とりまとめ」で論じた『体験的な学習』に関する学習サイクル」(28頁)にも通じている。また、これらの実践がどのような成果を上げているかという点については、「人権感覚チェックアンケート」や『おはよう5点』などのアンケートなどを定期的実施することによって確かめている。人権教育の成果をいかに評価すべきかという議論に一石を投じている。